

透析のトラブル 少ない対応病院

患者は増加、地方で手術困難

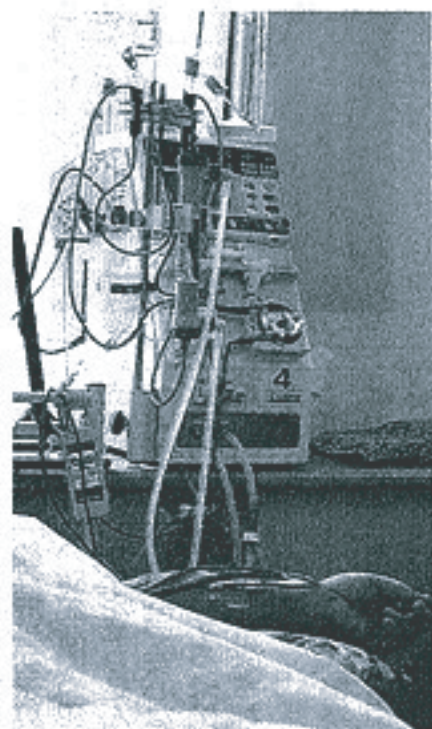
糖尿病などで機能が低下した腎臓に替わって、患者の体内の老廃物などを取り除く人工透析の患者が道内でも増えている。一方で、高齢化などに伴い、透析によるトラブルも増加傾向にあるのに、それに対応できる医療機関が追いついていないのが実情だ。一方で、道内で進む医師不足が影響している。

北の医療

道内の人工透析患者は07年12月末で1万3429人。04年は1万2085人だったが、生活習慣病患者の増加や道民の高齢化が進んでいるこ

とが大きいという。腎疾患の治療では「腹膜透析」などもあるが、一般的なのは「血液透析」だ。患者の腕の血管に「シャント」と呼ばれる血液の出入り口を作り、そこから取り出した血液を透析機を通して老廃物や余分な水分を取り除き、体内に戻す。06年の調査では、道内の透析患者の約95%が血液透析を受けていた。だが、治療の最中にシャントに血栓ができたり、血管が狭くなったりすると、血流が悪くなる「シャントトラブル」が起こることがある。シャントを作り直したり、人工血管を埋め込んだりしなければ治療を受けられなくなり、

生命の危険にさらされる。このトラブルに常に対応するため、札幌市南区の「小笠



原クリニック札幌病院」は08年5月、道内で初めて「透析・シャントトラブル専門血管センター」を開いた。川崎浩一院長を中心に、医師らが365日、24時間態勢で患者を受け入れている。

透析患者の腕につくったシャントから取り出した血液を透析機に通し、老廃物などを取り除く。札幌市南区

てもらえなかった。「すぐに手術をしてもらえたため、無事に透析を続けることができた」と振り返る。道内で透析治療を実施している医療機関は、少なくとも約190施設。だが、同センターのように迅速にシャントトラブルに対応できる病院は少ない。

シャントトラブルに対応するには、血管外科や透析の専門医などがいなければならず、必然的に総合病院のような施設に限られる。しかし、道内では、診療科によっては医師数が減り、都市部への医師の偏在も進んでいる。この影響もあり、地方でトラブルに迅速に対応することが非常に

に難しくなっている。岩内町で透析治療を行う医師は「近くの基幹病院は医師の数が少ないうえに周辺地域の患者が集中し、手が回らない。札幌の大病院も常に手いっぱい、急患を受け入れてもらえない」と話す。同センターの担当者によると、道内の患者が人工透析を始める年齢が66・6歳(06年)と高齢化していること、透析治療による生存率が高まり治療が長く続いて血管が傷みやすくなることなどで、シャントトラブルは増加しているという。川崎院長は「トラブルが起きた時、すぐに手術できる態勢を各地域に作る必要がある」と指摘している。

2009年(平成21年)
3月27日
金曜日



天気 6 9 12 15 18 21時

札幌	晴	晴	晴	晴	晴	30	-1
室蘭	晴	晴	晴	晴	晴	10	-1
苫小牧	晴	晴	晴	晴	晴	10	-1
小樽	晴	晴	晴	晴	晴	50	-2
旭川	晴	晴	晴	晴	晴	60	-3
函館	晴	晴	晴	晴	晴	20	-2
釧路	晴	晴	晴	晴	晴	70	-2
東京	晴	晴	晴	晴	晴	20	6
大阪	晴	晴	晴	晴	晴	10	11

朝日新聞北海道支社 発行所:〒060-8602札幌市中央区北2条西1-1-1 電話:011-281-2131 www.asahi.com

北海道 透析トラブル、対応に遅れ

機能が低下した腎臓に替わって体内の老廃物などを取り除く人工透析の患者が道内でも増えている。一方で、高齢化などに伴い、透析によるトラブルも増えているのに、医師不足の影響で、それに対応できる医療機関が追いついていない。 32面